

年頭所感

海上保安庁長官 石川 裕己



新年明けましておめでとうございます。

平成十八年

の年頭にあたり、

全国各地の救難所・支

所に所属して

いる約五万七千人の救助員の皆様方に對し、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

(社)日本水難救済会におかれましては、明治二十二年の創設以来、我が國の民間海難救助組織の中核として、海難発生の報を受けるや本来の仕事、ご家庭での時間などを犠牲にし、尊い人命のため海上荒天の中、昼夜を問わず献身的な海難救助活動に出動いただいております。

昨年は、全国で三五七件の海難に出動し、二八七名、一三四隻を救助（十一月末現在）

し大きな成果を上げることができました。これは全国の救助員の皆様の崇高なボランティア精神によるものであり、心から敬意を表する次第であります。

また、昭和六十年度に開始された洋上救急事業におきましては、海を職場とする船員の方はもちろん、ご家族、関係者にとりましても誠に心強い制度であり、各方面から高い評価を受けているところです。

さらに、平成十三年度から開始された「水難救済教室」におきましては、小中学生を対象として、海のメカニズム、危険予知、事故防止対策、救急法などの講習を行い、海事思想の普及や水難救済ボランティアへの理解を深めてもらつておりますが、昨年度は三十六箇所の地方水難救済会で開催され、この事業もほぼ定着してきたものと思ひます。若年齢層（十八歳以下）における海水浴、釣りなどのマリンレジャーによる事故の状況（七～八月）を見ますと、平成十七年までの過去五年間の死亡・行方不明者数は減少傾向にあり、これは、小中学生を対象として行われているこの教室の成果

が現れてきているのではないかと思われるところです。

昨年一年間、このような水難救済会の事業に、日夜全国各地でご活躍されました救助員の皆様、悪天候の中、長時間をかけて遙か洋上まで医療往診していただきました医療関係者の皆様、そのほか事業の運営に携われた皆様に対し、改めて心から感謝申し上げる次第であります。

海上保安庁といたしましても、沿岸海域で発生する海難に対し、潜水技術とレンジャー技術の両方を有する機動救助士を航空基地に配置し即応体制を強化するなどの体制をとつておりますが、貴会の救助活動をはじめとする事業に大きな期待を寄せております。貴会の更なる発展のため、出来る限りの支援を行うとともに、緊密な連携のもと、海上における尊い人命、財産の救助に万全を期す所存であります。

最後に、貴会の一層のご発展と皆様のご健勝を祈念いたしまして、私の年頭の挨拶とさせていただきます。